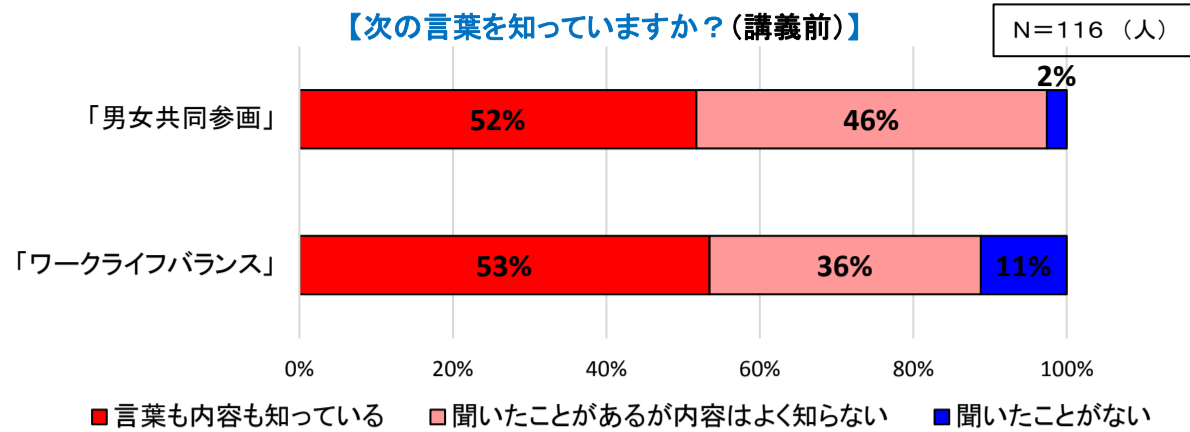
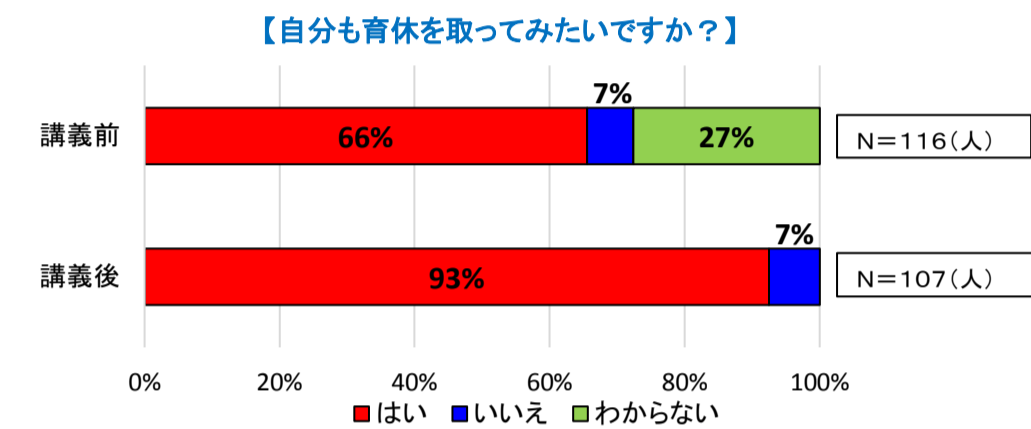


<2020年度 医と社会Ⅲ学生キャリア講習会 講義前後アンケート結果>



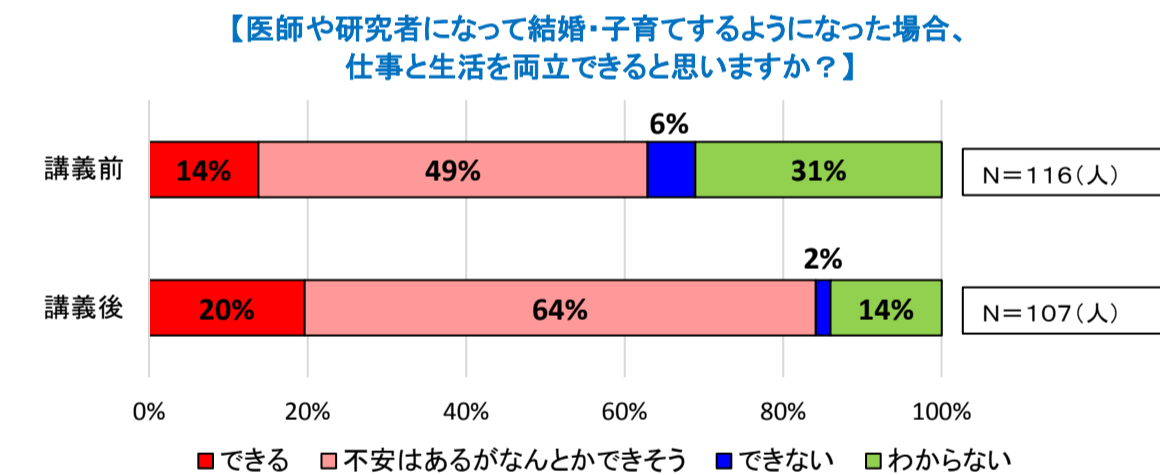
●2020年度の受講予定者130名の学生のうち、男性86名、女性44名(女性の割合34%)で、2014年度から例年行っている講義の中で、女性の割合が一番多い年でした。「男女共同参画」の言葉も内容も知っている割合は52%、「ワークライフバランス」は53%で過去最多でした。若い世代には、言葉が定着し、考え方も浸透してきていると思われます。

●現時点での将来の不安については、講義の前後で、不安がある割合は共に50%以上(前59%→後52%)であったものの、不安がない割合は少し増加(前25%→後33%)しました。講義後に、講義前と比べて不安が減った・なくなったと答えた割合は56%で、学生の半分以上は、不安を抱えながらも、本講義で不安を軽減できたようです。将来に対する不安の内容(複数選択)で一番多いのは、「仕事と生活の両立」(18%)でした。次は「勤務地」と「診療科の選択」が同数(15%)で続きました。

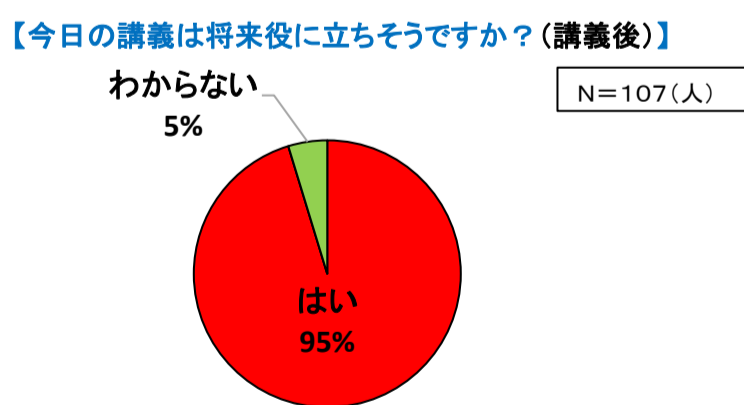
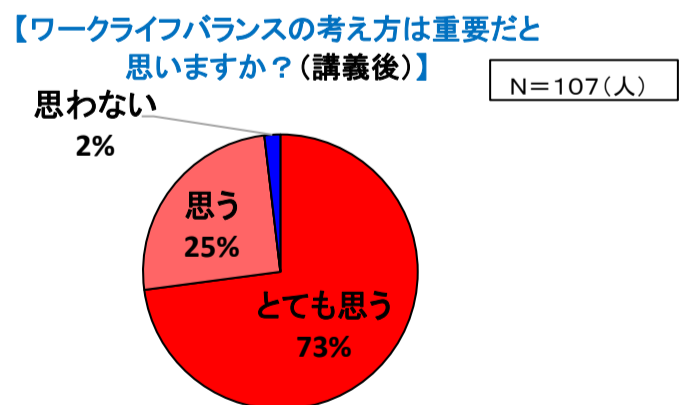


●「産休」「育休」の言葉はそれぞれ97%以上の割合で認知され、男性も育休を取ることができると知っている割合も99%と過去最多を更新しました。講義後の「自分も育休を取ってみたい」学生の割合は93%(男性93%、女性91%)の結果でした。これからの世代は、「育休取得は男女共に当たり前」と学んで社会に出てくるため、職場の上司・管理職の意識改革、組織の働き方改革は、優秀な人材を確保するためにも喫緊の課題です。

●将来の進路を決定する時に重視するもの(3つまで選択)のランキングでは、1位は講義前後共に「仕事の内容」、次に講義前は「希望するライフスタイルが得られる」「雰囲気の良い診療科」「収入」と続き、講義後は「やりがい」「雰囲気の良い診療科」「希望するライフスタイルが得られる」となりました。仕事にやりがいを感じながら生活を両立できて、雰囲気の良い診療科を若い世代は求めているようです。



●生活と仕事の両立については、講義の前後で、「できる」前14%→後20%、「なんとかできそう」前49%→後64%へと増加して、講義後の両立への自信は84%と高い割合に到達しました。「できない」「わからない」の割合はいずれも講義後に減少し、また、「今回の講義が将来役に立ちそう」と答えた学生は95%となり、講義の意義があったと感じました。



●学生からは以下のような感想がありました。

- ・医師となったのちの職業で用いる技術・知識ではなく、働いていない部分で必要となる知識を多く知ることができた。このような講義は他にないのでとてもためになった。(男性)
- ・今まで受けてきた医と社の授業の中で一番身近で自分の事としてためになる授業だと思いました。ロールモデルの先生たちの一日の流れをみて、将来が想像できてとてもためになりました。(女性)
- ・グループワークを通して、ワークライフバランスを保つための様々な方法があることに気づくことができました。また、育児のために仕事を犠牲にすることがないようにすることも大切だと知りました。(男性)
- ・病児保育施設があること、日本にもベビーシッターがいることを初めて知って、子どもを持つことに対する不安が少し減りました。また、夫婦で医者をやっている、お互いを尊重しつつ子育てやキャリアのために連携している人たちが意外と多く、大変な事だとは思いますが、両立する方法はいろいろあることを知れて未来が明るくなりました。お互いに尊重しあえるパートナーが欲しいと思いました。(女性)
- ・この手の問題は人によって状況も異なり、また人によって感じ方も異なるので、極めて多様なものなので、いかにそれぞれの問題に多くの人が関わり、知恵を出し合うかで結果や納得度が変わってくると思います。そういった意味では、サポート体制が肝であり、長崎大学はそのサポート体制が充実しており、またそのことを学生の内から授業で気付ける機会が与えられているのはとても良いことだと思いました。(男性)